



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— 星空観望を通して、推進員の活動をしております!!! —

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人つくしまNPOネットワーク)

■びゃっこい自生地

白河市在住で元小学校教員の小椋栄一さんは、「北半球では白河市表郷地区にのみ自生する「ビャッコイ」をご存じですか。牧野富太郎が命名しました。清らかに澄んだ冷たい清水の湧く所に自生しています」と、環境問題を考える時に大切な希少植物を教えてくださいました。高校2年の時に天文同好会を立ち上げ、望遠鏡を作り、夜空を眺めていましたが「夜空とは言いませんが、真つ暗闇ではないんです。」天文を中心に自然体験活動が続ける中で、自動車のライト、家庭や商店、工場、街路灯の明かりなど、夜空が明るいことに気が付いたと言います。

■推進員になったきっかけ

「夜空が明るいのには環境問題ではないかと考え、そのころ県が募集したうつくしまエコリーダーに、2001年に登録しました。」探求心が強い小倉さんは、

地球温暖化がどのように環境に影響を及ぼしているのかを学ぶために、推進員養成研修会を受講し、2003年12月に推進員になりました。

■星空観望会、自然体験活動

「エコリーダーの時代から市民を対象として星空観望会や自然体験活動を開催しています。現在も、推進員として楽しみながら続けています。」小学校の校庭や南湖公園など緑がある場所に集まり、寝転び、時には小降りの雨に濡れたりしながら、「五感を研ぎ澄まし、自然と対話します。虫眼鏡で観察した時などは、蟻と目が合っちゃったとはしゃぐ子どももいますよ。」

■みんなのできる地球温暖化防止活動

小椋さんは、自家用車を2台から1台に減らし、電動アシスト付自転車を利用しています。室内の暖房や冷房の効果を高めるために空気の循環に役立つサーキュレーターを設置し、部屋もパーテーションで区切り、必要な場所だけを空調しています。「日本特有の四季がなくなりつつあるなど感じます。サンマの不良も気になります。若者は、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)が得意です。自然観察で体験したこと、環境問題や地球温暖化防止への思いなどをSNSで発信し、同じ思いを共有する仲間を増やし、活動を広げていくって欲しいと思います。」

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>